様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １９ 日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｈ０１３７９

研究課題名（和文）アジアリンクの拡大からみた現代オーストラリアの産業多様化

研究課題名（英文）Industrial diversification in contemporary Australia in terms of the emerging Asia link

研究代表者
堤　純（Tsutsumi, Jun）

筑波大学・生命環境系・教授

研究者番号：９０２８１７６６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　12,310,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は，アジアリンクの拡大にともなう現代オーストラリアの産業多様化を引き起こす根本的なダイナミズムを，量的な変化のみならず質的な変化も念頭に置いて実証的に解明することとした。計画当初では，2019年度と2022年度の4年間の研究期間を通して現地調査を実施し，最新のオリジナルなデータを収集することを想定していた。しかし，新型コロナウイルスの感染拡大および海外渡航の中止により，研究計画の一部を修正した。具体的には，日本国内から実施できる統計資料の解析およびGIS（地理情報システム）による空間解析を多用し，オーストラリアの国内外および国内の人口移動に関する新たな知見を得ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では，研究期間の半分以上の期間において現地調査を実施できなかったため，当初計画していた内容について十分な成果を得ることができたとは言いがたい。その一方で，計画の一部を変更して国勢調査のカスタマイズデータとGISを組み合わせた膨大な解析を行ったところ，いままでわかっていなかった興味深い事実がいくつか浮かび上がってきた。大都市であるシドニーとメルボルンでは過去30年で初めての人口減少を経験した一方で，ブリスベンなどの一部の都市において国内移住者により人口増加がみられた。従来の傾向とは大きく異なる形で現代のオーストラリアが変貌する一端を解明できた点は，学術的にも社会的にも意義がある。

研究成果の概要（英文）：The aim of the study was to empirically elucidate the underlying dynamics causing industrial diversification in contemporary Australia as a result of the expansion of Asian links. At the outset of the project, it was envisaged that fieldwork would be carried out throughout the four-year research period from 2019 to 2022 to collect the latest original data. However, due to the spread of the new coronavirus and the cessation of overseas travel, new knowledge on population movements within and outside Australia and within the country was obtained through analysis of statistical data and spatial analysis using GIS.

研究分野：人文地理学

キーワード：アジアリンク　産業多様化　高級食材　サービス貿易　オーストラリア

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

本研究は，現代世界においてグローバルな規模で生じているパワーシフト（国家間の政治的・経済的関係）に対応して，オーストラリアがいかにして産業構造を戦略的に転換させてきたか，また産業構造の転換にともない社会や産業の多様化がいかに進行してきたかを実証的に解明するものである。「貿易」や「物流」などをキーワードとするオーストラリアをめぐるパワーシフトの議論においては，中国の台頭と量的な変化ばかりが強調される傾向があるが，一方で日本や東南アジア諸国との貿易においては新たな潮流が顕著にみられる。また，旧来の移民像とは全く異なる「英語が話せる」専門技術をもつ移民の増加により，現代オーストラリアはこれまでに経験したことのない変化の局面を迎えている。こうした最新動向は一刻も早くその実態解明を行う必要があった。本研究は，こうした課題に対して，人文地理学の立場から貢献しようとしたものである。

２．研究の目的

本研究の目的は，アジアリンクの拡大にともなう現代オーストラリアの産業多様化を引き起こす根本的なダイナミズムを実証的に解明することとした。

３．研究の方法

本研究のおもな研究方法は，パワーシフトによる産業多様化のダイナミズムを，表 1 に示す重点項目に該当するキー･パーソンや企業への聞き取り調査から分析することである。具体的には，オーストラリア国内はもとより，オーストラリアの主要な貿易相手国である日本，中国，東南アジア諸国を対象に，物流の変化の視点と，人的流動の変化の視点の両方の視点から分析を進める。

４．研究成果

計画当初では，2019 年度～2022 年度の 4 年間の研究期間を通して，研究代表者と研究分担者が現地調査を実施し，最新のオリジナルなデータを収集することを調査方法の基本として想定していた。しかし，新型コロナウイルスの感染拡大および海外渡航の中止により，研究対象期間の中盤に当たる 2020 年度および 2021 年度については現地調査を全く実施することができなかった。その結果，研究代表者の堤と研究分担者の大呂は研究初年度の 2019 年度および最終年度の 2022 年度に現地調査を実施したものの，分担者の葉，阿部，松井の 3 名は，研究対象期間の 4 年間を通して一度も海外現地調査を実施することができなかったため，研究開始当初に期待していたような十分な成果を得ることは困難であった。

しかし，現地調査に行けなかった 2020 年度および 2021 年度については，研究内容を修正した。具体的には，日本国内から実施できる統計資料の解析および GIS（地理情報システム）による空間解析などを通して，オーストラリアの国内外および国内の人口移動に関する新たな知見を得ることができた。具体的には，大都市であるシドニーとメルボルンでは過去 30 年で初めての人口減少を経験した一方で，ブリスベンなどの一部の都市において国内移住者により人口増加がみられた。

成果の一部について，メルボルン大都市圏で見られた顕著な変化をまとめると，都心近くでは公共交通分担率は高く，自動車依存は改善されているといえるものの，大都市圏全体を俯瞰した場合は公共交通分担率低く，公共交通優位というよりは高い自動車依存の状態にある。郊外に向かえば，一般に住宅価格は安くなる。そのため，車がなければ移動もままならないようなアクセスの悪い場所でも住宅開発が行われ，所得が高くない住民が住宅を取得していることが現状である。予想を上回るスピードで人口が増加し続けるメルボルン大都市圏においては，とくに外縁部では，予想を上回るペースで進行する人口増加の圧力に押されて，現実的には無秩序な開発ともいえる安易な住宅開発が進行し，結果として自動車依存が改善されない現状も見てとれる。コンパクトシティの追求が，本当に住みやすいサステイナブルな都市をつくりあげることができるのかは議論の余地があることを指摘できた。

また，シドニー及びメルボルン大都市圏の共通点として自宅で英語を使用する人は学歴に関係なく収入はエスニックグループと比較すると高い傾向にある。しかし大学進学率は自宅で英語を使用する人とエスニックグループとの間に差はほとんどなく，中国系，インド系のエスニックグループに関しては英語を使用する人よりも高い進学率を示している。大学進学率の高さの理由としては移民が第二，三世代目となり彼らが幼児期から英語で教育を受けてきたことで英語が流暢な移民が増加したことが考えられる。またエスニックグループの収入に関しては，大学卒業以上の中国語系言語とインド系言語のグループの収入は他のエスニックグループに比べ高く，特にインド系言語のグループは週給 2,000 豪ドル以上の割合が大都市圏の平均を超えている。

表1 シドニー大都市圏における使用言語別・学歴別にみた所得状況(2016年)

			大学卒業以上			専門学校以下・その他※※※			合計				
主要言語	言語別人口（人）	言語別割合（%）	週給650豪ドル未満（%）	週給650～1,999豪ドル（%）	週給2,000豪ドル以上（%）	週給650豪ドル未満（%）	週給650～1,999豪ドル（%）	週給2,000豪ドル以上（%）	週給650豪ドル未満（%）	週給650～1,999豪ドル（%）	週給2,000豪ドル以上（%）	非回答（%）	非分類※※※※（%）
英語	2,816,829	58.3	3.9	10.5	6.9	27.6	23.4	4.1	31.5	33.9	11	2.3	20.9
中国語系言語※	384,894	7.9	13.6	17.3	4.8	36.7	12.4	0.9	50.3	29.7	5.7	1.2	12.7
アラビア語	194,054	4.0	5.5	6.8	2.0	43.9	15.7	0.9	49.4	22.5	2.9	3.1	21.2
インド系言語※※	220,868	4.5	14.4	22.4	6.2	22.1	14.2	0.8	36.5	36.6	7.0	1.3	17.9
ヴェトナム語	99,296	2.0	5.2	8.8	2.4	45.7	18.4	0.7	50.9	27.2	3.1	2.0	16.3
ギリシア語	76,183	1.5	2.7	7.5	4.4	43.7	23.9	3.2	46.4	31.4	7.6	3.1	11.2
大都市圏全体	4,823,993	100.0	5.7	11.3	5.6	29	19.9	2.9	34.7	31.2	8.5	7.4	18.6

1) 表中の網かけは,大都市圏全体の平均を上回るもの。

2) ※中国語系言語は,標準中国語(北京語),広東語,客家語,呉語などの合計。

3)※※インド系言語は,ベンガリ語,ヒンディー語,ネパール語などIndo-Aryan系の言語の合計。

(https://www.abs.gov.au/ausstats/abs@.nsf/Lookup/2901.0Chapter6102016)

4) ※※※その他には,非回答・非分類を含む。

5) ※※※※非分類は,統計上Not applicableと分類されたもの。

(オーストラリア統計局のデータにより作成)

表2 メルボルン大都市圏における使用言語別・学歴別にみた所得状況（2016年）

			大学卒業以上			専門学校以下・その他※※※			合計				
主要言語	言語別人口（人）	言語別割合（%）	週給650豪ドル未満（%）	週給650～1,999豪ドル（%）	週給2,000豪ドル以上（%）	週給650豪ドル未満（%）	週給650～1,999豪ドル（%）	週給2,000豪ドル以上（%）	週給650豪ドル未満（%）	週給650～1,999豪ドル（%）	週給2,000豪ドル以上（%）	非回答（%）	非分類※※※※（%）
英語	2,781,183	62.01	4.8	11.7	5.4	29.5	23.6	2.4	34.3	35.3	7.8	2.6	20.0
中国語系言語※	280,016	6.24	16.3	16.8	3.7	37.7	10.8	0.8	54.0	27.6	4.5	1.1	12.8
アラビア語	76,271	1.70	7.2	8.1	1.9	41.8	13.4	0.9	49.1	21.5	2.9	3.3	23.2
インド系言語※※	202,451	4.51	14.9	20.4	4.4	23.3	15.8	0.6	38.2	36.2	5.1	1.5	19.0
ベトナム語	101,388	2.26	6.6	9.3	1.8	44.5	17.7	0.6	51.1	27.0	2.3	2.1	17.5
ギリシア語	107,392	2.39	3.6	7.9	3.5	48.1	21.0	2.3	51.6	28.9	5.8	3.3	10.4
大都市圏全体	4,485,210	100.0	6.2	11.5	4.4	30.4	20.0	2.5	36.6	31.5	6.9	6.7	18.3

1) 表中の網かけは,大都市圏全体の平均を上回るもの。

2) ※中国語系言語は,標準中国語(北京語),広東語,客家語,呉語などの合計。

3)※※インド系言語は,ベンガリ語,ヒンディー語,ネパール語などIndo-Aryan系の言語の合計。

(https://www.abs.gov.au/ausstats/abs@.nsf/Lookup/2901.0Chapter6102016)

4) ※※※その他には,非回答・非分類を含む。

5) ※※※※非分類は,統計上Not applicableと分類されたもの。

(オーストラリア統計局のデータにより作成)

次にシドニー及びメルボルン大都市圏ではエスニックグループが集住している地域は，高所得者の割合が低い傾向にある。しかし中国語系言語を話す人が多く住むチャツウッドや，CBD 周辺部では高所得者の割合が高い。また，シドニー大都市圏では，イタリア語，ギリシア語，インド語などのグループは高所得者の割合が高い沿岸部にも集住が確認されているため,高所得者の割合が多いと考えられる。

上記から，オーストラリアにおけるエスニックグループ全般に関して，多文化社会の成功事例として取り上げられることの多いオーストラリアの大都市圏であるが，収入の面からみると家庭で英語を話すグループとの間に差があることが指摘できる。しかしエスニックグループの大学進学率の高さや家庭では英語以外の言語を使用する人口の増加から,今後エスニックグループの存在はオーストラリア大都市圏の中でさらに大きくなると考えられる。

またエスニックグループの中でもインド系と中国語系は他のエスニックグループと比べて少し異なる。前述の通りこの二つのグループは他のエスニックグループに比べ大学進学率も高く収入も高い傾向にある。また，2006 年から 2016 年の 10 年で家庭で使用される言語の割合はシドニー，メルボルン両都市で 2 倍にまで増加している。このような理由からインド系と中国語系はオーストラリア内のエスニックグループの中でも存在が突出していることがわかった。

本研究では，こうしたデータ解析を主な手法として分析を進めるように研究計画を修正・変更したことにより，主な研究業績を得ることができた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　8件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　8件）

１．著者名 堤 純	４．巻 14
２．論文標題 オーストラリアの先進的な統計利用―テーブルビルダーの利点と可能性―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 地理空間	６．最初と最後の頁 159～160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24586/jags.14.3_159	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 堤 純	４．巻 14
２．論文標題 国勢調査カスタマイズデータからみたメルボルン大都市圏の変容	５．発行年 2021年
３．雑誌名 地理空間	６．最初と最後の頁 161～170
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24586/jags.14.3_161	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 宇野 広樹、堤 純	４．巻 14
２．論文標題 オーストラリア大都市圏におけるホテル立地に関する考察	５．発行年 2021年
３．雑誌名 地理空間	６．最初と最後の頁 171～180
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24586/jags.14.3_171	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 阿部 亮吾	４．巻 14
２．論文標題 シドニー大都市圏におけるアジア系留学生の居住分布の空間的特徴	５．発行年 2021年
３．雑誌名 地理空間	６．最初と最後の頁 191～200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24586/jags.14.3_191	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 堤 純	4．巻 14
2．論文標題 オーストラリアの先進的な統計利用―テーブルビルダーの利点と可能性―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 地理空間	6．最初と最後の頁 201～202
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24586/jags.14.3_201	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 堤 純、ケヴィン・オコナー	4．巻 35
2．論文標題 ギリシャ系移民のセンターとしてのオークレイ ―ギリシャ系コミュニティの役割に着目して―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 オーストラリア研究	6．最初と最後の頁 1～17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20764/asaj.35.0_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 松原 咲樹、堤 純	4．巻 34
2．論文標題 オーストラリアにおける日本人ワーキングホリデー渡航者の近年の傾向	5．発行年 2021年
3．雑誌名 オーストラリア研究	6．最初と最後の頁 77～88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20764/asaj.34.0_77	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 大呂興平	4．巻 68
2．論文標題 オーストラリアの地域農業における「生産者主導」の研究開発過程 ： 北部準州・キャサリン地区の研究活動を事例に	5．発行年 2022年
3．雑誌名 経済地理学年報	6．最初と最後の頁 74～96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20592/jaeg.68.1_74	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 堤　純
2．発表標題 急速な人口増加がもたらすコンパクトシティ政策の功罪―オーストラリア・メルボルンの事例―
3．学会等名 群馬地理学会
4．発表年 2021年

1．発表者名 堤　純
2．発表標題 オーストラリア大都市圏の変容
3．学会等名 地理空間学会
4．発表年 2022年

1．発表者名 宇野 広樹・堤　純
2．発表標題 ホテル検索サイトデータを活用したオーストラリア都市内部のホテル立地に関する考察
3．学会等名 地理空間学会
4．発表年 2022年

1．発表者名 阿部 亮吾
2．発表標題 シドニー大都市圏におけるアジア系留学生の居住分布
3．学会等名 地理空間学会
4．発表年 2022年

〔図書〕　計2件

1．著者名 堤　純	4．発行年 2022年
2．出版社 ナカニシヤ出版	5．総ページ数 224
3．書名 漆原和子、藤塚吉浩、松山洋、大西宏治編『図説 世界の地域問題 100』	

1．著者名 菊地　俊夫	4．発行年 2021年
2．出版社 二宮書店	5．総ページ数 156
3．書名 地の理の学び方	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	阿部　亮吾 (Abe Ryogo) (10509144)	愛知教育大学・教育学部・准教授 (13902)	
研究分担者	葉　せいい (Yeh Chienwei) (30242332)	茨城大学・人文社会科学部・教授 (12101)	
研究分担者	大呂　興平 (Oro Kohei) (50370622)	大分大学・経済学部・教授 (17501)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	松井　圭介 (Matsui Keisuke) (60302353)	筑波大学・生命環境系・教授 (12102)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関